

まちづくりの功績を称えて  
平成25年度功労者・善行者、町長顕彰表彰式を実施



(前列左から)大江スマ子さん、樫耕三さん、佐藤町長、児島仁さん、小石税さん、近藤益夫さん(後列左から)相澤誠さん、高田博行さん、山田照夫さん、丸玉産業株式会社・松岡道雄工場長

11月3日、中央公民館において、平成25年度津別町功労者・善行者並びに町長顕彰の表彰式が行われました。

今年は、功労者(産業開発、社会福祉、消防)・善行者表彰を5氏1法人、町長顕彰を3氏が受賞。佐藤多一町長から一人ひとりに表彰状と記念品を贈呈し、町の発展や振興に多大な貢献をされた方々の功績を称えました。

受賞者を代表して相澤誠さんが「この度の受賞は、身に余る光栄です。今後も津別の発展のために尽くしてまいります」と謝辞を述べられました。

受賞おめでとついでいます(受賞者の詳細は、広報つべつ11月号で紹介しています)。

歌唱や舞踊などを熱演  
第32回町民文化祭「舞台発表」

11月2日から中央公民館で開催された第32回町民文化祭(主催・津別町文化協会の一環として、11月17日に舞台発表が行われました)。

オープニングは、津別中学校吹奏楽部が元気いっぱいの演奏で観客を魅了。続いて各参加団体が舞踊や詩吟、歌謡曲、大正琴、三味線、合唱、太鼓、社交ダンスなどさまざまな演目で、日ごろの活動の成果を披露しました。

舞台上で繰り広げられる熱演の数々に、会場を埋め尽くした観客からは盛んな拍手と声援が送られていました。



網走川流域のつながりを学ぶ  
津別小学校でサケ出前授業

10月24日、津別小学校の5年生クラスで「サケ出前授業」が実施されました。オホーツク海で獲れたサケを通じて、流域のつながりや河川環境の大切さを学ぶことを目的に、網走川流域農業・漁業連携推進協議会の協力により行われたものです。授業では、網走漁協青年部の方が、早朝から行われるサケ漁の様子をビデオで分かりやすく説明。続いて、水揚げされたばかりの秋サケを使って、三枚おろしやイクラ作りを体験しました。



子どもたちは、実際に触れることで、地域の重要な海産資源であるサケの生態などについてより深く学習していました。

ttownics

まちのわだい

海外の文化や学校生活を体験  
ニュージージーランド研修報告

津別町青少年海外研修派遣事業で、ニュージージーランドに滞在していた津別高校の生徒(いずれも1年生)が、研修を終えて帰町。11月5日に町長室を訪れ、報告を行いました。

生徒たちは、「ホストファミリーが親切で、ホームステイが楽しかった」(伊東留依くん)、「なかなか言葉が通じなかったけど、学校で友だちができた」(河野百音さん)、「実践的な英語が学べて、積極的にコミュニケーションがとれた」(山本風紗さん)などとそれぞれ感想を話し、12日間の研修で異文化や生活に触れたことによる成長を感じさせました。



爽やかなハーモニーを堪能  
第6回リコーダーセミナーコンサート開催



10月27日、中央公民館でリコーダーセミナーコンサート(主催・津別町民芸術劇場、津別町教育委員会)が行われました。6回目を迎えた「つべつリコーダーセミナー」の参加者67名が、その成果を披露する舞台です。

10月27日、中央公民館でリコーダーセミナーコンサート(主催・津別町民芸術劇場、津別町教育委員会)が行われました。6回目を迎えた「つべつリコーダーセミナー」の参加者67名が、その成果を披露する舞台です。初級クラスの演奏で幕を開けたコンサートは、上級クラス、全体合奏へと進み、クラシックから現代曲まで多彩な選曲で楽しませてくれました。



最後に金子健治氏ら4人の講師による演奏も行われ、聴衆は深みのある音色に聴き入っていました。

練習の成果を披露  
老人クラブ連合会演芸交流会



10月31日、中央公民館で津別町老人クラブ連合会の演芸交流会が開催されました。会の冒頭で、永く老人クラブの活動に尽力された方への功労者表彰などがあり、続いて美幌消費者協会会長・白石さよさんが、「トランプルに遭っている高齢者、虎の子が狙われている!」と題する講演を行い、詐欺被害の防止を呼びかけました。



延べ40名が出演した舞台発表では、舞踊やカラオケ歌唱、寸劇などのステージを披露。観客からは、惜しみない拍手が送られていました。

地域おこし協力隊の「思い」を日記

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

森川 理香  
東京都出身。道の駅あいおいを拠点に活動中。夏はトマトの、今はタマネギの甘さに感動し毎日食べている。

津別町に協力隊として行くことが決まり一番不安に思ったことは、田舎暮らしの不便さでも、真冬の寒さでもなく、車の運転だった。なんせ、ペーパードライブ歴20年。親戚、友人からもこれが一番心配された。運転は死活問題。慌てて妹に運転を習った。

そんな私がなんとか運転できているのは、北海道の広くて長い真つすくな道と車が少ないおかげだ。運転中に「真つすくな道」が現れると、これぞ北海道!と顔がほころび、やつと景色を楽しみ余裕が生まれる。

津別町のステキな景色を探したい

先日、帯広まで車で行った。片道約3時間の運転は私にとって冒険で不安だった。しかし、真つすくな道に牧歌的な風景が続き、紅葉も美しくとても気持ち良く、楽しくなりました。

母にこのことを話すと「運転がうまくなったんだね」と言われたが、誤解のないよう「残念ながら、うまくなったわけではなく、広い道のおかげです」と答えておいた。

もちろん津別町にも気持ち良く運転できる好きな道、景色がある。相生から津別市街へ行く途中、本岐の手前だ。天気の良い日に通ると「津別町に来てよかった」と思う。運転技術を上達させ、津別町のステキな景色を多く見つけたい。